

『満洲文学大系』刊行にあたって

西原和海

いわゆる「満洲文学」とは、戦前、「満洲国」（中国東北）において展開された文学運動と、そこで生まれた文学作品のことを指すわけだが、その実態に対する関心と研究とが熱を帯び始めるのは、日本においても中国においても、一九八〇年代半ばあたりからのことであった。以来、出版・映画・演劇・美術など、文学周辺の文化諸ジャンルをも巻き込みながら、この分野への研究が着実に進められてきた。

しかし、その熱意が高揚を見せるのは、一九九〇年代から二〇一〇年代初期あたりまでであって、その後、研究状況は次第に沈滞化していく……。なぜ、そうなったのだろうか。その間の事情については、いろいろと説明もできようが、その大きな理由としては、研究対象となるべき、そもその文学作品に接する機会を、私たちはなかなか得ることができなかったから、ということが挙げられよう。

要するに、満洲国内で刊行された文学書の類い、個々の作品が発表された多種多様な雑誌など、それらが現在、ほとんど入手困難となっているからである。例えば、満洲文壇を主導した文芸雑誌『作文』は今、滅多に見ることができないし、そこに参加した作家・詩人たちの著書も、今日、瞥見することさえ容易ではない。

このような研究上の危機状況を、どうにかして打破していかなくてはならない。それが今回、この『満洲文学大系』を企画・編纂したモチーフとなっている。もちろん、ここに収録した本たちは、満洲文学全体的一端を示すに留まる。読者の好評を得ることができたならば、さらにこの『大系』の拡大・充実を図っていきたい。

本書の特色

- 「満洲国」で刊行された、在満作家の稀覯な代表作を集成。
- 日本人作家のみならず中国人作家、ロシア系作家も収録。アンソロジー、詩集なども収録し、多様な満洲文学の諸相がうかがえるよう精選した。
- 満洲文学研究者のみならず、広く日本文学研究者・現代史研究者・植民地史研究者にとって必備・必読の資料を提供する。
- 「満洲国とは何であったか」という問いかけに、文学の場から応える基本文献を紹介。
- 各巻に解説を附す。

●特におすすめしたい方●
日本近代文学、植民地文学、植民地研究者、大学及び研究機関の図書館など。

満洲文学大系 全24巻

【監修】西原和海 ●揃予価：本体 568,000 円＋税 ISBN978-4-8433-7098-8 C3391 A5 判上製／カバー

第1回配本 全8巻 ●揃定価：本体 194,000 円＋税 ISBN978-4-8433-7099-5 C3391 2025 年 10 月刊行

第1巻	秋原勝二『暮鼓』（解説・西原和海）	定価：本体 22,000 円＋税	ISBN978-4-8433-7100-8 C3391
第2巻	北村謙次郎『月牙』（解説・韓玲玲）	定価：本体 23,000 円＋税	ISBN978-4-8433-7101-5 C3391
第3巻	長谷川潜『烏爾順河』（解説・川崎賢子）	定価：本体 20,000 円＋税	ISBN978-4-8433-7102-2 C3391
第4巻	青木實『花筵』『北方の歌』（解説・西原和海）	定価：本体 30,000 円＋税	ISBN978-4-8433-7103-9 C3391
第5巻	日向伸夫『邊土旅情』（解説・高媛）	定価：本体 23,000 円＋税	ISBN978-4-8433-7104-6 C3391
第6巻	三宅豊子『曙の歌』（解説・西原和海）	定価：本体 24,000 円＋税	ISBN978-4-8433-7105-3 C3391
第7巻	爵青（大内隆雄・訳）『黄金の窄き門』（解説・牛耕耘）	定価：本体 20,000 円＋税	ISBN978-4-8433-7106-0 C3391
第8巻	大内隆雄『満洲文学二十年』（解説・西原和海）	定価：本体 32,000 円＋税	ISBN978-4-8433-7107-7 C3391

第2回配本 全8巻 ●揃予価：本体 198,000 円＋税 ISBN978-4-8433-7108-4 C3391 2026 年 春 刊行予定

第9巻	竹内正一『復活祭』	予価：本体 28,000 円＋税	ISBN978-4-8433-7109-1 C3391
第10巻	町原幸二『是好日』	予価：本体 18,000 円＋税	ISBN978-4-8433-7110-7 C3391
第11巻	筒井俊一『北邊抒情』	予価：本体 20,000 円＋税	ISBN978-4-8433-7111-4 C3391
第12巻	加納三郎『満洲文化のために』	予価：本体 26,000 円＋税	ISBN978-4-8433-7112-1 C3391
第13巻	上野市三郎『縣城の空』	予価：本体 22,000 円＋税	ISBN978-4-8433-7113-8 C3391
第14巻	満洲文話会 編『大陸の相貌』	予価：本体 30,000 円＋税	ISBN978-4-8433-7114-5 C3391
第15巻	趙孟原（小松） 編『黄土の花』	予価：本体 18000 円＋税	ISBN978-4-8433-7115-2 C3391
第16巻	城小確『絹街道』／『塞外詩集』ほか	予価：本体 36,000 円＋税	ISBN978-4-8433-7116-9 C3391

第3回配本 全8巻 ●揃予価：予価 176,000 円＋税 ISBN978-4-8433-7117-6 C3391 2026 年 秋 刊行予定

第17巻	山田清三郎『老宋』	予価：本体 22,000 円＋税	ISBN978-4-8433-7118-3 C3391
第18巻	小林實『開拓祭』	予価：本体 20,000 円＋税	ISBN978-4-8433-7119-0 C3391
第19巻	満洲文話会 編『満洲よもやま』	予価：本体 20,000 円＋税	ISBN978-4-8433-7120-6 C3391
第20巻	満洲文芸家協会 編『北の護り』	予価：本体 24,000 円＋税	ISBN978-4-8433-7121-3 C3391
第21巻	石軍（大内隆雄・訳）『沃土』	予価：本体 22,000 円＋税	ISBN978-4-8433-7122-0 C3391
第22巻	バイコフ（香川重信・訳）『満洲獵人の手記』	予価：本体 24,000 円＋税	ISBN978-4-8433-7123-7 C3391
第23巻	浅見淵『満洲文化記』	予価：本体 24,000 円＋税	ISBN978-4-8433-7124-4 C3391
第24巻	西原和海 編『新編 吉野治夫作品集』	予価：本体 20,000 円＋税	ISBN978-4-8433-7125-1 C3391

『満洲文藝年誌』『満洲藝文年鑑』 全2巻

【監修・解題】西原和海 ●揃定価：本体 40,000 円＋税 満洲文学・文化の動向を記す、黎明期と最終期の幻の「年鑑」2冊を刊行。

コレクション・近代日本の中国都市体験 全20巻

【監修】東京女子大学比較文化研究所・上海外国語大学日本研究センター 【全体編集】和田博文・高 潔

●揃定価：本体 500,000 円＋税 中国の主要 17 都市に関わる、日本語メディアを復刻し、言語や画像の表象の蓄積をたどる。各主要都市が、どのように近代日本に受容されていったのかを明らかにする第一級資料集。「エッセイ」「解題」「関連年表」「主要参考文献案内」を収録。

ゆまに書房 〒101-0047 東京都千代田区内神田 2-7-6 TEL.03(5296)0491 FAX.03(5296)0493 https://www.yumani.co. 

ゆまに書房 Tel.03(5296)0491／Fax.03(5296)0493 年 月 日		取扱店
ご注文書		
満洲文学大系 全24巻 □第1回・全8巻 □第2回・全8巻 □第3回・全8巻		
お名前		
ご住所		TEL ()

『満洲文学大系』

——満洲文学を代表する日・中・露の作家たちを集成。

「満洲国」で活動した主要な作家の代表作を精選。

稀覯な作品群を大系的に網羅する、

満洲文学・文化研究必読のシリーズ。

全24巻

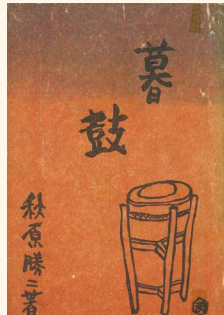
◆監修◆ 西原和海



●第1巻 ●
秋原勝二 暮鼓

〔北陵文庫、一九四五年〕

著者の満洲時代唯一の創作集。『作文』同人。「在満日本人二世」の生き方を問うた代表作「夜の話」などを収録。



〔収録内容〕夜の話／草／膚／暮鼓／河や山／草薺唱／あとがき

●第2巻 ●
北村謙次郎 月牙

〔吐風書房、一九四三年〕

『満洲浪漫』を主宰した著者の随筆・評論集。新京を中心とする当時の文壇状況を活写して、貴重な資料ともなっている。



〔収録内容〕こどものつりかた／満洲国各民族創作選集序／寛城子にて（浅見淵氏へ）／満洲文学十年の譜／黄瀛の訃／冬の網膜／無題／寛城子にて／陰霧集／熱河風物帖／熱河讀／熱河を想ふ／この夏の記／短い旅の記／寛城子の秋／航海日記／炉辺雑記／海の御民／旅の宿／北駅／南滿旅情／北辺羈旅小品

●第3巻 ●
長谷川渚 烏爾順河

〔国民図書社、一九四四年〕

建国ロマンを夢みた著者の、主として内モンゴルを舞台にした小説と紀行文を集める。「満洲浪漫」主宰者の一人。



〔収録内容〕蘇へる花束／烏爾順

●第9巻 ●
竹内正一 復活祭

〔満鉄社員会、一九四一年〕

著者の得意とする「哈爾濱もの」を中心とした短篇小説集。うらぶれた白系ロシア人・日本人などの姿を活写する。『作文』同人。

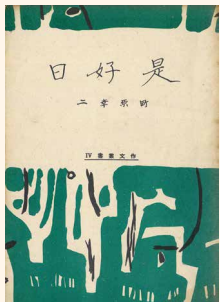


〔収録内容〕馬家溝／白眠堂徑租／復活祭／山裾の街／孤児／寒暖／故郷／ギルマン・アパート点描／寧安覚え書

●第10巻 ●
町原幸二 是好日

〔作文発行所、一九四〇年〕

日々の暮らしの中、人や本との出会いなどを慎ましく綴った小品随筆を集める。『作文』同人として活躍。



〔収録内容〕汽車見物／雨天の実／ある町角の本屋／睡蓮咲く頃／カルタと川原君／岡山君の年賀状／友の転動／三月一日の日記／「夢二追憶特集号」／絵の挿話／奉天に行く小杉君／「父」の小説／市民の一票／本の挿話 出版記念会／木田と妹のこと／絵の旅 ほか

●第11巻 ●
筒井俊一 北邊抒情

〔千代田書房、一九四四年〕

新聞社学芸部に勤務しながら、代表作「林檎園」など、旺盛な創作活動を見せた。小説十一篇を収録。



●第17巻 ●
山田清三郎 老宋

〔東亜文化図書株式会社、一九四四年〕

プロレタリア文学から離れて渡満した著者の足跡を明らかにする諸作品を収録。いわゆる「開拓文学」に属するものが目立つ。



〔収録内容〕老宋 若草山／北満の一夜／春耕期／寛城子の部屋／陳氏と副県長／佐藤応次郎／開拓地の子供／初うぶ児

●第18巻 ●
小林實 開拓祭

〔満洲事情案内所、一九四二年〕

著者は満洲国現地でただひと、「開拓文学」を書き続けた作家。表題作はじめ、その初期作品七篇を集める。



〔収録内容〕開拓祭／新来者／平凡な人／混合列車／壁／伝説／姜志興の入宮／馬の逃げたわけ／朝霧／創作手帳

●第19巻 ●
満洲文話会編

〔満洲文話会、一九四四年〕

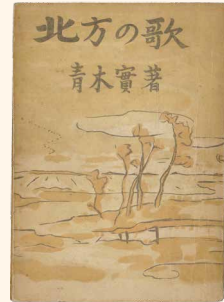
満洲文話会によって編まれた皇軍慰問文集。コント、随筆、詩、短歌、漫画などが掲載。木崎龍、今村栄治、なども寄稿。〔収録内容〕小説「牝鷄 牛島春子」童話「兵隊先生」山田健二／「満洲の歴史の話」奥村義信／「満洲の地理と住民」山崎末治郎／随筆「満洲好き」高橋源一／「水洩り事件」長谷川渚／「半田半平のこと」木崎龍／「ホントにサヨナラ」町原幸二／詩「砂漠の中」小杉茂樹／「春の国境」城小確／「白

河／鷲／三つの世界／野火／耕地／海拉爾の宿／或るマクシムの手記／早春／バルチャコン草原にて／ウスチ・シユルホーワヤ修道院／カムチャーツカ紀行

●第4巻 ●
青木實 花筵

〔大連詩書倶楽部、一九三四年〕

〔収録内容〕大正十一年四月のこと／待機／レコード／秋思記／喫茶店／稲城／旅中日記抄／雨の汽車旅／旅／伊豆土肥道



著者は『作文』の実質上の主宰者。「北方の歌」は、満洲国がかえる民族的・社会的問題に果敢に挑戦した小説作品を集める。初期の詩的散文集「花筵」も併録。

〔収録内容〕呼倫貝爾／農業倉庫／農事合作社職員の手帳／屯のはなし／青服の少女／沙塵／北辺／あとがき

●第5巻 ●
日向伸夫 邊土旅情

〔北陵文庫、一九四三年〕

「白頭山紀行」はじめ、満鉄旅客課に勤務した著者ならではの紀行随筆を集める。『作文』同人。



〔収録内容〕白頭山紀行／撫松

県城／秋風旅情／松花江紀行／熱河自動車路線紀行／北の沃野／秋深き農場にて／哈爾濱の憂鬱／普及版の本／昨日感じたこと／凍る夜々／氷花の季節／海軍記念日／己れの道／第八号転轍器について／作文編集の回顧／二十九歳／科学 語／早春随筆／校正室にて／第二次勝戦祝賀の日／京都の春

●第12巻 ●
加納三郎 満洲文化のために

〔作文発行所、一九四一年〕

・司法官だった著者は、異色の『作文』同人として文芸評論、社会時評を執筆。その主要作を集めた作品集。

〔収録内容〕満洲文化のために／満洲国の文化運動は如何に為すべきか／国民文化運動の主体としての満洲文話会／満洲ジャーナリズム論／満洲文学の独自性／満洲文学の新たな課題／郷愁雑記／齊々哈爾の死刑場／島の三日間 ほか

●第13巻 ●
上野市三郎 縣城の空

〔国民図書社、一九四四年〕



興農合作社に勤務のかたわら書かれた満洲農村ルポ。序文は山田清三郎。表題作ほか、「実験農村の話」、「屯長の笛」など。

〔収録内容〕実験農村の話／屯長の笛／北の楽主義／分家の話／農村／泥濘の交易場院子／農産物交易場風景／隠れた殊勲者／合作社訪問記／ある興農会の家で／乾媽 終列車の出来事／疏安と飄筆／蒲と戦ふ人々／縣城の空 ほか

●第14巻 ●
満洲文話会編 大陸の相貌

〔吐風書房、一九四四年〕



随筆、詩、短歌、俳句など、満洲文壇の主要な書ぎ手一一六名による作品アンソロジー。牛島春子、望月百合子、三宅豊子などが登場。

〔収録内容〕実験農村の話／屯長の笛／北の楽主義／分家の話／農村／泥濘の交易場院子／農産物交易場風景／隠れた殊勲者／合作社訪問記／ある興農会の家で／乾媽 終列車の出来事／疏安と飄筆／蒲と戦ふ人々／縣城の空 ほか

●第20巻 ●
満洲文芸家協会編 北の護り

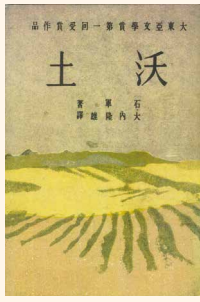
〔満洲新聞社、一九四三年〕

「関東軍報道隊演習」に参加した文学者たちによる、小説・詩・報告などの記録文集。逸見猶吉、大野澤緑郎、青木實、山田清二郎など多彩な執筆陣。

〔収録内容〕「まへがき」満洲文芸家協会／「初うぶ児」山田清三郎／「墳墓」神戸佛／「下士官室」八木橋雄次郎／「黒龍江のほとりにて」逸見猶吉／「瓊瑤」三好弘光／「げに覚めよアムール」大野澤緑郎／「雑糞から」鈴木啓佐吉／「報道隊員の手記」大野澤緑郎／「国境の部隊」三好弘光／「監視哨に立つ」筒井俊一／「少年部隊」上野凌峻／「黙々敢闘鈔」林田茂雄／「国境の兵」青木實

●第21巻 ●
石軍（大内隆雄・訳）沃土

〔満洲雜誌社、一九四四年〕



爵青と並んで大東亜文学賞を受賞した長篇小説。中国東北の農村を舞台に、そこに生きる地主一家の転変を活写。

〔収録内容〕沃土

●第22巻 ●
バイコフ（香川重信・訳）満洲獵人の手記

〔吐風書房、一九四四年〕

「偉大なる主」の作者としてあまりに著名な白系ロシア人バイコフによる回想文集。ロシアの東清鉄道開設から満洲事変までの時代を描く。

／暮春日記／竹内正一氏と「復活祭」／北の旅／臨江にて／烏龍／少年／あとがき

●第6巻 ●
三宅豊子 塹の歌

〔吐風書房、一九四一年〕

満洲文壇にあつて、もっとも著名だった女性作家。この地に生きる女たちの生活・恋愛・育児などの姿を描いた小説六篇を収める。『作文』同人。

〔収録内容〕羽音／朝け／乱菊／静かな風／帰郷／塹の歌

●第7巻 ●
爵青（大内隆雄・訳）黄金の窄き門

〔満洲公論社、一九四五年〕

当時の文壇にあつて「鬼才」と目された爵青の幻の長篇。満洲国壊滅直前、大内隆雄訳で刊行された。大東亜文学賞受賞作品。〔収録内容〕黄金の窄き門

●第8巻 ●
大内隆雄 満洲文学二十年

〔国民図書社、一九四四年〕



評論家・翻訳家として活躍した著者の回想録。満洲文学の年代的記録としては唯一のものである。

〔収録内容〕同人雑誌「黎明」の頃／続、詩人たち、「塞外詩集」「三人集」「燕人街」など／稲葉亨二、石原巖徹や「街」線」など／「胡同」「曙人」と「満洲文学バンフレット」そして「満洲文芸年誌」／満洲事変と文芸界「高粱」の創刊／「高粱」のその後、『作文』／「満洲行政」と「モダン満洲」／満洲文話会が出来て／「原野」刊行の頃／「満洲浪漫」／満系文学史の展望／満洲文芸家協会結成さる／康德九年以後の概況 ほか

〔収録内容〕満洲篇「三太太の命」牛島春子／「田舎で会った日本人」富田寿／「霜ふる」金丸精哉／「都会と農村の同志たち」望月百合子／「愛路運動雑誌」青木實／「屯子のこと」など／野川隆ほか／北支篇「日本色雜観」高木健夫／北京雜記「江崎磐太郎」／「黄琉璃の破片」飯塚朗／「胡同の酒場」近東綺十郎／「支那劇の観賞態度」石原巖徹／「北京に於ける美術文化の現状」一氏義良 ほか／詩「叢原に死す」坂井艶司／「星ヶ浦の海のように」藤原定／「曉市場にて」小杉茂樹／「雪の夜」古川賢一郎／「たむろ記」島崎曙海／「水仙花」城小確 ほか／短歌／俳句

●第15巻 ●
趙孟原（小松 編）黄土の花

〔藝文書房、一九四五年〕



満洲国崩壊直前、中国人作家経営の出版社から発行された日本人作家による短篇小説集。青木實、長谷川渚、小林實などが寄稿。

〔収録内容〕先遣隊物語 菅忠行／野の病院 小林實／部落の掟 濱崎初好／根の帰農兵 上野凌峻／鉄警分所日誌 青木實 関家三戸開拓団 長谷川渚

●第16巻 ●
城小確『絹街道』／『塞外詩集』ほか

●第2巻 ●
塞外詩集

〔塞外社、一九三〇年〕

●第2巻 ●
塞外詩集

〔塞外社、一九三〇年〕

●第2巻 ●
塞外詩集

〔塞外社、一九三〇年〕

●第2巻 ●
塞外詩集

〔塞外社、一九三〇年〕

●第2巻 ●
塞外詩集

〔塞外社、一九三〇年〕

●第2巻 ●
塞外詩集

〔塞外社、一九三〇年〕

●第2巻 ●
塞外詩集

〔塞外社、一九三〇年〕

●第2巻 ●
塞外詩集

〔塞外社、一九三〇年〕

●第2巻 ●
塞外詩集

〔塞外社、一九三〇年〕

●第2巻 ●
塞外詩集

〔塞外社、一九三〇年〕

●第2巻 ●
塞外詩集

〔塞外社、一九三〇年〕

●第2巻 ●
塞外詩集

〔塞外社、一九三〇年〕

●第2巻 ●
塞外詩集

〔塞外社、一九三〇年〕

●第2巻 ●
塞外詩集

〔塞外社、一九三〇年〕

●第2巻 ●
塞外詩集

〔塞外社、一九三〇年〕

●第2巻 ●
塞外詩集

〔塞外社、一九三〇年〕

●第2巻 ●
塞外詩集

〔塞外社、一九三〇年〕

●第2巻 ●
塞外詩集

〔塞外社、一九三〇年〕

●第2巻 ●
塞外詩集

〔塞外社、一九三〇年〕

●第2巻 ●
塞外詩集

〔塞外社、一九三〇年〕

●第2巻 ●
塞外詩集

〔塞外社、一九三〇年〕

●第2巻 ●
塞外詩集

〔塞外社、一九三〇年〕

●第2巻 ●
塞外詩集

〔塞外社、一九三〇年〕

●第2巻 ●
塞外詩集

〔塞外社、一九三〇年〕

●第2巻 ●
塞外詩集

〔塞外社、一九三〇年〕

●第2巻 ●
塞外詩集

〔塞外社、一九三〇年〕

●第2巻 ●
塞外詩集

〔塞外社、一九三〇年〕

●第2巻 ●
塞外詩集

〔塞外社、一九三〇年〕

●第2巻 ●
塞外詩集

〔塞外社、一九三〇年〕

●第2巻 ●
塞外詩集

〔塞外社、一九三〇年〕

●第2巻 ●
塞外詩集

〔塞外社、一九三〇年〕

●第2巻 ●
塞外詩集

〔塞外社、一九三〇年〕

●第2巻 ●
塞外詩集

〔塞外社、一九三〇年〕

●第2巻 ●
塞外詩集

〔塞外社、一九三〇年〕

●第2巻 ●
塞外詩集

〔塞外社、一九三〇年〕

●第2巻 ●
塞外詩集

〔塞外社、一九三〇年〕

●第2巻 ●
塞外詩集

〔塞外社、一九三〇年〕

●第2巻 ●
塞外詩集

〔塞外社、一九三〇年〕

●第2巻 ●
塞外詩集

〔塞外社、一九三〇年〕

●第2巻 ●
塞外詩集

〔塞外社、一九三〇年〕

●第2巻 ●
塞外詩集

〔塞外社、一九三〇年〕